

国際教育カリキュラムの提案・発信に向けて

鳴門教育大学教員教育国際協力センター

前所長 服 部 勝 憲

文部科学省は「初等中等教育における国際教育推進検討報告」（平成17年8月）の中で、国際社会で求められる態度・能力について、次のようにまとめている。

「全ての子供たちが、

- ・異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる態度・能力
- ・自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立
- ・自らの考えや意見を自ら発信し、行動することのできる態度・能力

を身に付けることができるようにすべきである。そしてこれらを育成することが国際教育である。」

また本学HP「本学の運営」の中で次のように述べられている。「本学が社会に負う最大の使命は、確かな実践力を身に付け、かつ人間的な魅力を兼ね備えたすぐれた教員を養成することにある。学部4年間または大学院において学生たちを鍛え、これぞ鳴門教育大学の卒業生であると胸を張ることのできる「鳴門ブランド」の教員を育て、社会に送り出したいと願っている。…（中略）…本学の基本路線は、いわゆる教育実践学を核とした教員養成、教師教育を強力に押し進めるという点にあり、本学に求められている社会的な期待もこの点にあると考えている。本学の進むべき道は、そうした社会や時代が要請する優れた教員の養成にあることをまずは確認しておきたい。」

これらのことから、国際教育への取組が本学の教員養成、教員の力量向上に資する役割には大変大きなものがあることがわかる。また本学の目指す教員養成、教員の力量向上の営為は国際教育の進展に繋がるものといえる。

ところで国際教育が本学の教育・研究に資するには、その具体的な展開を保証するカリキュラム（国際教育カリキュラム）が必須のものになる。またこのカリキュラム編成には本学の教育・研究だけを視野に入れるのではなく、広く市民はもとより地域の小・中学校、高等学校や国際協力関係機関・団体との連携・協力体制づくり等も欠かせない要件となる。また、国際教育のさらなる展開にとって重要なことは、拠って立つ考え方であると考えられる。その重要なキーワードとして、「人間の安全保障」と「持続可能な開発」がある。国連や関係省庁の文書の中で、それらは「個々の人間の生命と尊厳を守ること」、そして「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会づくりのこと」であるとの記述がある。また「持続可能な開発のための教育」とは、「基礎教育の完全普及によりすべての人々の能力を強化すること」と示されている。まさに、今日の、そして明日の教育を創る本学の目指す教員養成、教員の力量向上のねらいと深く重なっていると考えられる。

本学教員教育国際協力センターでは、第一期（平成17、18、19年度）と第二期（平成20、21、22年度）の視野のもとに事業を計画し展開してきた。第一期分については、その事業報告書、事業評価報告書で示した通りである。進行中の第二期については、上述の国際教育カリキュラムの取りまとめと提案・発信が重要な事業の1つになる。その意味からも本センター紀要「国際教育協力研究」による教育・研究の積み上げは重要であると考えている。諸賢のご意見・ご指導を心からお願いするものである。

（平成22年9月）